

低炭素まちづくり

分類（出所）	番号	分類	項目	ご意見の内容	ご意見に対する市の考え方
パブコメ （意見交換会）	1	低炭素まちづくり	—	低炭素まちづくり？低炭素の意味が判らない	低炭素まちづくりは、「都市機能の集約化」「公共交通の利用促進」「建築物の省エネ化やエネルギーの効率的利用」「みどりの保全・創出」に関する取組みを基本として、市民が暮らしやすい持続可能なコンパクトなまちづくりと同時に二酸化炭素排出量の削減を実現するまちづくりです。
パブコメ （意見交換会）	2	低炭素まちづくり	中心市街地のにぎわい創出	宇部の街にコアが無い又厚南地区に大型店が乱立しているので消費に不自由はしない、又中心市街地をつくると言う事は既存の店舗をつぶすのか等中心市街地を否定する発言がありましたが、本当に良いのでしょうか。そもそも中心市街地の概念がまちがっています。中心市街地とは、文化、情報、人、物、金の交流するにぎわいのある街でなければいけないと思います。中心市街地の土地所有者、営業者が積極性がないとの発言もありましたが、長い目で見れば、いつも必要な人、必要な企業へ変貌するものであります。市は積極的に基盤整備をすすめて下さい。	『中心市街地のにぎわい創出』（P44）において、市庁舎建替え、市役所周辺整備、宇部新川駅周辺地区整備など、市民と連携して、民間投資を盛り込んだ計画を、低炭素まちづくり計画という新しい視点で作成し、賑わい創出を図るとともに、景観計画推進事業による景観の形成、活性化対策として、イベント開催の支援を行っていきます。
パブコメ （意見交換会）	3	低炭素まちづくり	中心市街地のにぎわい創出	楽しい、嬉しい、もう一度きたい、暮したいと思うような宇部市にしたらどうでしょうか。中心は、中央（市役所、中央、新川駅）地区であり、それから、各地域と協議、連携すれば良いのではないのでしょうか。インパクト（市民広場の設置、全市民一致団結に祭り、行事等）後、地域活性につながります。	『中心市街地のにぎわい創出』（P44）において、市庁舎建替え、市役所周辺整備、宇部新川駅周辺地区整備など、市民と連携して、民間投資を盛り込んだ計画を、低炭素まちづくり計画という新しい視点で作成し、賑わい創出を図るとともに、景観計画推進事業による景観の形成、活性化対策として、イベント開催の支援を行っていきます。 また、「中心市街地活性化対策事業」（P45）において、宇部観光コンベンション協会や宇部商工会議所をはじめとした、さまざまな団体と連携し、宇部まつり、新川まつり、花火大会など大規模イベントを継続開催するとともに、内容もさらに工夫を凝らすことで中心市街地のにぎわいづくりに取り組みます。商店街の活性化につきましては、『産業振興による雇用確保の促進』（P26）の主要事業である「中小企業等振興支援事業」（P27）において、「元気な商店街づくり推進事業」を個別事業として位置付け、空き店舗への新規出店に対する補助やイベント開催補助、課題解決に向けた取組への補助など、積極的に取り組んでいるところです。
パブコメ （意見交換会）	4	低炭素まちづくり	中心市街地のにぎわい創出	商店街の活性化・・・街中でのイベント開催（今ある施設の活用を考える。）	『中心市街地のにぎわい創出』（P44）において、中心市街地活性化対策事業により、既存の広場等をイベント広場として活用し、魅力あるまつり・イベントの開催を支援します。 また、「中心市街地活性化対策事業」（P45）において、宇部観光コンベンション協会や宇部商工会議所をはじめとした、さまざまな団体と連携し、宇部まつり、新川まつり、花火大会など大規模イベントを継続開催するとともに、内容もさらに工夫を凝らすことで中心市街地のにぎわいづくりに取り組みます。商店街の活性化につきましては、『産業振興による雇用確保の促進』（P26）の主要事業である「中小企業等振興支援事業」（P27）において、「元気な商店街づくり推進事業」を個別事業として位置付け、空き店舗への新規出店に対する補助やイベント開催補助、課題解決に向けた取組への補助など、積極的に取り組んでいるところです。
パブコメ （意見交換会）	5	低炭素まちづくり	中心市街地のにぎわい創出	取組の方向性の「低炭素まちづくり」の施策「中心市街地のにぎわい創出」について、ご意見にもありました様に少し違和感を覚えました。 「取組の目標」をよく読めば、この施策の意味が理解できます。しかし、このままでは、一般の市民の方々には誤解を招く表現となっているようです。 例えば、「中心市街地の都市機能の構築」としたら如何でしょうか？ また、取り組みの目標の中に、・・・「魅力ある中心商業地づくり」・・・とありますが、「魅力ある中心生活拠点づくり」・・・とした方が、今回の「都市の低炭素化の促進に関する法律」の趣旨に合致しているように思います。 この目標に関する主要事業に「市庁舎建替え事業」が新規事業として組み込まれています。「市庁舎をどこにするか」ということでもあります。今の宇部市の現状からすると、市庁舎の建設と既に存在する大規模商業施設の再構築をリンクすることは難しいと思います。 「市庁舎建替え事業」については、専門家はもちろんの事ですが、「市民」との十分な議論を踏まえて進めていただきたいと考えます。	『中心市街地のにぎわい創出』（P45）は、都市機能の構築などのハード事業と、商業支援やイベント開催等のソフト事業を盛り込んでいるため、施策名は『中心市街地のにぎわい創出』とします。 また、市庁舎は『中心市街地のにぎわい創出』のための核施設と位置付けています。 市庁舎建替え事業については、多様な意見を聴くため、専門家も含めた市民委員会を設置し、建替えに関する基本的な考え方をとりまとめることとしています。

低炭素まちづくり

分類(出所)	番号	分類	項目	ご意見の内容	ご意見に対する市の考え方
パブコメ (意見交換会)	6	低炭素まちづくり	中心市街地のにぎわい創出	「中心市街地のにぎわい創出」→中心市街地の整備」に変更する。 (特定地域を、税金で賑わい創出することは、公益性、公平性から問題がある)	『中心市街地のにぎわい創出』(P44)は、都市機能の構築などのハード事業と、商業支援やイベント開催等のソフト事業を盛り込んでいるため、施策名は「中心市街地のにぎわい創出」とします。
パブコメ (意見交換会)	7	低炭素まちづくり	中心市街地のにぎわい創出	「市庁舎立替事業」(22p) 当事業は、【防災・都市基盤】としたのがよい。	市庁舎の建替えについては、中心市街地のにぎわい創出のための事業と位置づけていますが、ご指摘のとおり、「防災・都市基盤」の整備として、災害に強い安心安全なまちづくりに寄与する事業でもあり、検討に当たっては十分配慮します。
パブコメ (意見交換会)	8	低炭素まちづくり	中心市街地のにぎわい創出	市役所建設を利用活用して、コンパクトシティの構築を同時に考える総合的に考える市役所新構築を実行	『中心市街地のにぎわい創出』(P44)の中心市街地定住交流促進事業において、市庁舎建替え事業、市役所周辺整備事業などを盛り込んだ、コンパクトシティを目指した低炭素まちづくり計画を作成します。
その他(市外政策提言)	9	低炭素まちづくり	中心市街地のにぎわい創出	宇部市に観光客を呼ぶ方策を考えます。 同窓会の為には帰郷しますが、「まつり」での帰郷は皆無であるのが現状なのです。(「きらら博」は別として) 「ふるさと宇部にいかに観光客を呼び寄せるか」 毎日のように、小さなイベントは現在行われていますが、「ふるさと宇部まつり」として、大々的な「祭り」を創り上げます。5月の新川市まつりや、11月の宇部まつりも再検討します。	宇部観光コンベンション協会や宇部商工会議所をはじめとした、さまざまな団体と連携し、宇部まつり、新川市まつり、花火大会など大規模イベントを継続開催するとともに、内容もさらに工夫を凝らすことで中心市街地のにぎわいづくりに取り組みます。
パブコメ (意見交換会)	10	低炭素まちづくり	中心市街地のにぎわい創出	自然災害時に市民の避難場所として機能するような、耐震性や高さを備えた市役所庁舎の新設または改築が必要ではないか。	市役所本庁舎については、老朽化や耐震性などに問題があるため、建替えが必要であると認識しています。このため、現在、庁内の検討組織で現庁舎の現状や課題を整理するとともに、庁舎建設の基本的な考え方について検討しています。また、市民の議論を通じて本庁舎の建替えについての基本的な考え方をとりまとめるため、市民委員会を設置します。
パブコメ (意見交換会)	11	低炭素まちづくり	中心市街地のにぎわい創出	コンパクトシティを目指して、人口密度の高い地区と中心市街地を連結する交通手段を整備する。(自転車の活用を含む)	中心市街地や地域拠点を結ぶ公共交通の整備などを低炭素まちづくりという視点で検討します。
パブコメ (意見交換会)	12	低炭素まちづくり	中心市街地のにぎわい創出	平成33年度に向けて、大きな柱を大事に。 ①市役所中心にコンパクトシティ委員会	「低炭素まちづくり協議会」を平成25年12月26日に立上げ、コンパクトシティを目指した低炭素まちづくり計画作成に関する協議を行っていきます。
意見交換会 (1回目)	13	低炭素まちづくり	中心市街地のにぎわい創出	「中心市街地のにぎわい創出」「低炭素まちづくり」とはどう関係しているのか	『中心市街地のにぎわい創出』(P44)において、市庁舎建替え、市役所周辺整備、宇部新川駅周辺地区整備など、市民と連携して、民間投資を盛り込んだ計画を、低炭素まちづくり計画という新しい視点で作成し、賑わい創出を図るとともに、景観計画推進事業による景観の形成、活性化対策として、イベント開催の支援を行っていきます。
意見交換会 (1回目)	14	低炭素まちづくり	中心市街地のにぎわい創出	厚南校区や岬校区では大型のショッピングセンターを中心に街ができています。 中心市街地の活性化を市民が本当に求めているか、疑問に思います。	中心市街地は、歴史的、文化的背景等が相まった「まちの顔」であり、また、「くらしの広場」としてコミュニティの中心的役割を担っていることから、中心市街地の活性化が必要と考えています。
意見交換会 (1回目)	15	低炭素まちづくり	中心市街地のにぎわい創出	中心市街地を中心として各地域が発展するべきだと思います。	中心市街地や地域拠点への都市機能の集約化と地域間を結ぶ公共交通の利用促進によるコンパクトシティを目指した低炭素まちづくりを進めていきます。
意見交換会 (1回目)	16	低炭素まちづくり	中心市街地のにぎわい創出	3年前に宇部市に帰ってきたが、昔と比較するとコアな地域がなくなっているように感じる。 昔の中心街のように、ここにくるとこれだけそろそろ、といった環境がないので、対策をお願いしたい。	『中心市街地のにぎわい創出』(P44)において、市庁舎建替え、市役所周辺整備、宇部新川駅周辺地区整備など、市民と連携して、民間投資を盛り込んだ計画を、低炭素まちづくり計画という新しい視点で作成し、賑わい創出を図るとともに、景観計画推進事業による景観の形成、活性化対策として、イベント開催の支援を行っていきます。
その他(市外政策提言)	17	低炭素まちづくり	中心市街地のにぎわい創出	中心市街地のにぎわい創出について、中心街から郊外に人々が移住しており、それをどうやって中心地に戻すのが重要 青森駅前ケースが参考になる。	また『産業振興による雇用確保の促進』(P44)における主要事業である「中小企業等振興支援事業」(P27)において、元気な商店街づくり推進事業を実施し、商店街が取り組む空き店舗への出店支援やイベント開催への支援を通じて、商店街活性化に取り組んでいきます。

低炭素まちづくり

分類(出所)	番号	分類	項目	ご意見の内容	ご意見に対する市の考え方
パブコメ (意見交換会)	18	低炭素まちづくり	中心市街地のにぎわい創出	中心市街地の活性化をお題目のように唱えること、市役所の建て替えとリンクさせて考えなおしたほうがよいかも。宇部の未来が、中心部の活性化に委ねられているという明確な根拠、考えがあれば別だとは思いますが。 未来の子供たちのために勇気をもって、新しい観点(いわゆる先進地域を視察して参考にしたりしない。宇部独自の考えを創造する)から宇部の将来像を構築してはどうか。 後戻りすることを恐れることなく。	中心市街地や地域拠点への都市機能の集約化と地域間を結ぶ公共交通の利用促進によるコンパクトシティを目指した低炭素まちづくりを進めていきます。 なお、市庁舎は中心市街地のにぎわい創出のための核施設と位置付けており、市庁舎建替え事業については、多様な意見を聴くため、専門家も含めた市民委員会を設置し、建替えに関する基本的な考え方をとりまとめることとしています。
パブコメ (意見交換会)	19	低炭素まちづくり	中心市街地のにぎわい創出	中心市街地よりも宇部市民の人口重心にコンパクトシティを構築する。 すべての市民に同一な市民サービスをする限界(税制に限界がなければ別だが)をふまえて、まちづくりを考えることも必要であると思う。	中心市街地や地域拠点への都市機能の集約化と地域間を結ぶ公共交通の利用促進によるコンパクトシティを目指した低炭素まちづくりを進めていきます。
パブコメ (意見交換会)	20	低炭素まちづくり	中心市街地のにぎわい創出	■地域の役割を明確にしたまちづくりをする 宇部市は、工場地帯、市街地、近郊住宅地、農業山林地帯というふうに分けられると思います。それぞれの地域の役割を明確にし、乱開発や無駄な開発、環境破壊を避ける必要があると思います。30年前に比べると、田畑が住宅やショッピングモールなどに大量に置き換わって、食料生産という意味で、本当に危機感を覚えます。(宇部市の食料自給率はどうなっているのでしょうか。) 例えば、 ・市街地に中層集合住宅を増やす 車の利用が減る、市街地が活性化する ・農業山林地帯は、食料生産、水源、本来の自然の確保を徹底させる そのためには、農林業の活性化策(土地政策など)が必要 市街地、近郊住宅地の人たちの協力が必要となる ・近郊住宅地に広い駐車場を用意し、その駐車場と市街地や工場地帯をバスで結ぶ。これにより、市街地への車の乗り入れを抑制でき、駐車場を利用してカーシェアリングを促進できる。	中心市街地や地域拠点への都市機能の集約化と地域間を結ぶ公共交通の利用促進によるコンパクトシティを目指した低炭素まちづくりを進めていきます。 また、農山村の持つ機能を維持保全していくための取り組みとして、農業では、新規就農者の育成、担い手への農地の利用集積、集落営農の法人化や企業の農業参入を進めるとともに、多様な農地利用として民間による市民農園の開設を支援していきます。また林業では、タケノコ等の竹林資源の有効活用を図るため竹林の整備を進めるとともに、水源としての役割を持つ森林への関心を高めるため、市有林を活用した市民や事業所参加による保全活動を実施していきます。
パブコメ (意見交換会)	21	低炭素まちづくり	中心市街地のにぎわい創出	■市街地に緑を取り戻す(デザインする) 以前は、緑の工業都市がキャッチフレーズだったと思います。今は、無味乾燥な市街地や幹線道路沿線になっていると感じています。これでは宇部という街に愛着を感じる市民、魅力を感じる観光客は少ないでしょう。先日徳山へ行くことがありましたが、駅前の街路樹が立派でした。羨ましく思いました。	市街地の緑については、これまでシンボルロード(市道常盤通り宇部新川線)や常盤通り(国道190号)、真締川公園などを中心に、「緑と花と彫刻のまち」が創出されるよう、緑化や彫刻の設置をしてきました。 今後も都市の緑化や緑地の保全、彫刻の設置など様々な取り組みを推進します。
パブコメ (団体)	22	低炭素まちづくり	中心市街地のにぎわい創出	施策の体系 「中心市街地のにぎわい創出」は低炭素まちづくりの括りに入れるのが妥当か？	中期実行計画では、「中心市街地のにぎわい創出」の具体的な取組目標を、『都市機能がコンパクトに集積し、にぎわいがあり、歩いて暮らせる「まち」を目指すとともに、賑わいと潤いが調和した、魅力ある中心商業地づくりを進め、若者の起業機会の拡大と中心市街地の活性化を図ります。』としています。 策定を予定している低炭素まちづくり計画においても、“にぎわいのあるエコなまちづくり”をコンセプトとして、都市機能の集約化、公共交通の利用促進等を掲げているため、低炭素まちづくりという取組の方向性の中に、「中心市街地のにぎわい創出」を設定しました。
パブコメ (意見交換会)	23	低炭素まちづくり	中心市街地のにぎわい創出	①【地域経済の活性化】への取り組みとして「低炭素街づくり」は、解り難い。(18p) 【健康で心豊かなまちづくり】に変更したのがよい。(19p) (例えば、市庁舎の立替や環境保全対策は地域経済の活性化を目的とする事業でしょうか) ②「低炭素まちづくり」は、解り難い。「人間に優しいまちづくり」に変更したのがよい。 ③「低炭素まちづくり」の各施策は、次のように変更する 「中心市街地の賑わい創出」→【防災・都市基盤】 「生活交通の活性化・再生」→【人間に優しいまちづくり】 「再生可能エネルギー導入促進対策」→【人間に優しいまちづくり】 「環境ビジネスの創出」→【産業力強化・雇用対策】 「家庭における環境活動の促進」→【人間に優しいまちづくり】 「実践的な環境教育の推進」→【人間に優しいまちづくり】 「協働による環境にやさしいまちづくり」→【人間に優しいまちづくり】 「環境保全対策」→【人間に優しいまちづくり】	低炭素まちづくりは、地域経済の活性化につながる重要な課題であり、様々な観点から進めていくことが重要であると考え、関連する施策を可能な限り集約することとしました。 なお、各項目の表現については、基本構想の取組内容などを踏まえながら、設定しています。

低炭素まちづくり

分類(出所)	番号	分類	項目	ご意見の内容	ご意見に対する市の考え方
パブコメ (意見交換会)	24	低炭素まちづくり	生活交通の活性化・再生	公共交通、デマンド交通を市民にある程度強制的に行う方法を検討する。月に一度はノーマイカーが無い日を設ける等の積極的展開を実施する。	デマンド交通は中山間地域の自動車が利用できない高齢者を主な対象としています。公共交通を強制的に利用してもらうことは困難ですが、利用促進には取り組んできます。また、ノーマイカーデーについては、エコ通勤の普及等の個別事業の中で取り組んでいきます。
パブコメ (意見交換会)	25	低炭素まちづくり	生活交通の活性化・再生	現実的に地域に対応した(田舎は田舎なりの)利用しやすい運行をお願いしたい。大通りだけではなく、多少の脇道も運行できるコースに変更、その為に日中だけでも、高齢者及び人口減少で、小型バスの導入等できないのだろうかと思う。	地域ごとに異なる公共交通のニーズに対応し、地域の交通手段を地域の力で実現するため、担当者が地域に伺い情報交換するなどして、サポートしていきます。
パブコメ (意見交換会)	26	低炭素まちづくり	生活交通の活性化・再生	J R宇部線利用促進事業。駅周辺に駐輪駐車場を作ってほしい駅にはいらない線路のあとを利用する。自転車車で電車に乗れるようにする。	「歩行者と自転車にやさしい都市環境整備」(P126)において、駅周辺などの自転車駐輪場を整備し、利用者の利便性の向上を図ります。また、2014年にJ R宇部線開業100周年を迎えることから、J R宇部線の地域との関わりの歴史を振り返るとともに、市民にマイレール意識を持ってもらうために記念事業を行う予定です。2015年には、J R小野田線が100周年を迎えるなど、記念行事が続くことから、これを契機に宇部線、小野田線の利用促進を継続的に行っていく予定です。
パブコメ (意見交換会)	27	低炭素まちづくり	生活交通の活性化・再生	「生活交通の活性化・再生」について 宇部市営バスのあり方として、高齢者や学生・通勤などのためだけでなく、宇部市の経済効果を生み出すため、中心市街地の活性化という目的を加えるべきです。せっかく宇部市が宇部市民の税金で運営しているので「福祉」だけでなく、「経済効果」への役割も果たすべきです。	宇部市営バスを含む公共交通について、移動に不自由している高齢者や学生等の移動を確保するという目的に、これからのまちづくりのための手段として位置付け、「生活交通の活性化・再生」に中心市街地の活性化の観点も取り入れ、事業を実施していきます。なお、路線の見直しにあたっては、地域の特性を勘案しながら取り組んでいきます。
意見交換会 (3回目)	28	低炭素まちづくり	生活交通の活性化・再生	バスを利用して中心市街地に出てほしい。 「移動手段のための公共交通」に「まちの活性化のための公共交通」という視点をプラスし、バスをまちづくりに関して積極的に活用していく姿勢が大事だと思う。	
意見交換会 (3回目)	29	低炭素まちづくり	生活交通の活性化・再生	まちづくりは経済の活性化に寄与することを明文化してほしい。 経済的なものを生み出そうという考えがないのではと感じる。 市営バスを使った取組みを中期実行計画にぜひ入れていただきたい。 コアなところ以外でも市民が広く使えるような方向性を希望する。	
意見交換会 (2回目)	30	低炭素まちづくり	生活交通の活性化・再生	宇部市営バスについて、休日と平日の時刻を合わせたり、行き先の表示名の工夫、路線を色分けするなど、市営バスの運行を分かりやすくしてほしい。	休日と平日の時刻を合わせることは、利用実態と効率性の面から難しい場合があります。行先や路線の表示については、平成25年度に路線番号制度を導入したところであり、引き続き、バス停に運賃を表示するなど利便性の向上に取り組むこととしています。
意見交換会 (3回目)	31	低炭素まちづくり	生活交通の活性化・再生	デマンド交通が二俣瀬全体に行き渡るようにしてほしい。	二俣瀬のデマンド交通は、バス路線のない交通空白地域であったところを、市営バスが運行していない地域とバス路線を廃止した代替手段として運行をスタートしました。地域のためにはバス路線も必要なことから、当面は現行のエリアの運行としていきたいと考えています。小学生の通学便については、デマンドタクシーにより二俣瀬全体で対応しています。
意見交換会 (3回目)	32	低炭素まちづくり	生活交通の活性化・再生	船木方面のバス路線をもっと増やしていただきたい。 街なかで飲食し帰りが遅くなると、タクシーよりホテルのほうが安く付く場合がある。 また、車中心の生活のスタンス、あり方を変える必要もあるのではないかと。 企業にも協力してもらい、例えば企業の交通費支給をバス利用だけに限るなど、バスの利用を促し、公共交通の利用を誘導する仕組みを考えられないか。	船木方面のバス路線は、利用者の減少が続いており、宇部駅での乗り継ぎや運行間隔などを工夫し、利用者確保し、路線を維持している状況です。企業の通勤での公共交通の利用については、ノーマイカーデーや乗継の改善などを通じて、引き続き企業に理解を求めています。
意見交換会 (2回目)	33	低炭素まちづくり	生活交通の活性化・再生	車優先のまちづくりで公共交通離れが進んでいる。 公共交通に対する市民の意識改革が必要と思うので、公共交通について中期実行計画に盛り込んでいただきたい	バスの利用促進イベントやバス乗り方教室、J R宇部線に対するマイレール意識の醸成のための利用促進を行う中で、公共交通に対する関心や意識を高めて行くことを推進します。また、宇部市営バスを含む公共交通について、移動に不自由している高齢者や学生等の移動を確保するという目的に、これからのまちづくりのための手段として位置付け、「生活交通の活性化・再生」に中心市街地の活性化の観点も取り入れ、事業を実施していきます。

低炭素まちづくり

分類(出所)	番号	分類	項目	ご意見の内容	ご意見に対する市の考え方
パブコメ(団体)	34	低炭素まちづくり	生活交通の活性化・再生	生活交通の活性化・再生の項 ①取り組みに具体性見えない ②中期目標値が現状の3%アップしかないが妥当な目標か？(市営バス、JRの利用者数)	人口が減少する中、市営バス、JR宇部線ともに利用者の減少が続いており、宇部線については、近年は減便も行われています。 まずは、利用者減に歯止めをかけることが重要で、目標年次では利用率が3%アップすることを目標としています。
パブコメ(意見交換会)	35	低炭素まちづくり	再生可能エネルギー導入促進対策	■再生可能エネルギーの事業を徹底的に普及させる エネルギー問題は、これからどんどん大きくなると誰でも考えているでしょう。エネルギー自給率を上げるならば、再生可能エネルギーを強力に推し進めていく必要があります。屋根に太陽光発電を設置する方法が、コスト的にも、景観的にも一番進めやすい方法だと思います。	太陽光発電設備の導入については、公共施設の建て替え等に合わせて行うなど、今後も積極的に進めてまいります。
パブコメ(団体)	36	低炭素まちづくり	再生可能エネルギー導入促進対策	再生可能エネルギーの導入促進対策の項 ①常盤公園エコパーク化の中の取組はこの中に入れるのか？ ②市民共同発電という取組は表に出さないということか。 ③中期目標値の18について、加算4は少ないが、設置可能施設の数の何%に相当するのか？	①「再生可能エネルギー導入促進事業」(P51)の中で、ときわ公園のエコパーク化を推進します。 ②市民共同発電は、再生可能エネルギー導入手法の一つであると考えており、未確定な状況での掲載は控えています。
パブコメ(意見交換会)	37	低炭素まちづくり	環境ビジネスの創出	環境ビジネスとして、山口大学・宇部高専他の学と産の技術活用を強調する。	「取組の目標」にある「産官学民の連携」という表現を、より具体的なものに改めます。
パブコメ(意見交換会)	38	低炭素まちづくり	家庭における環境活動の促進	環境学習は志立市民大学受講人数を増やす事が必要だと思っています。西岐波地区において、H26年の受講者はH26年1月現在5名が決定しております。(環衛連から推進しております。) 3R推進事業においては、H26年1月現在、塵減量の観点から段ボールコンポスト51台の販売をして、実施してもらっております。私自身は「清掃団体サンフラワー会」をH23.6から現在にいたり、毎月再生資源回収を実施して、お金を地域の草刈り実施に当てております。	平成26年度の宇部志立市民大学について、カリキュラムの見直し等を実施して受講生の増加に取り組めます。 また、3R推進事業につきましては、引き続きごみの減量化に向けた各種3R施策を市民・事業者の皆様と連携して推進してまいります。
パブコメ(意見交換会)	39	低炭素まちづくり	家庭における環境活動の促進	第一、ゴミに関する事は、一生のつきあいであり、施設等の建設が必要です。 人間は、一人では生きられないため、隣近所(三軒)を大事にすれば、次も隣を大事にする、話し合い、声掛けすれば人間関係が出来ます。 とも、心豊か、健康、イコール(元気で生々すること間違いなし)	—
パブコメ(意見交換会)	40	低炭素まちづくり	家庭における環境活動の促進	■過剰包装とゴミ対策を徹底的に行う いつもプラスチックごみの多さに閉口しています。過剰包装問題を改善するには、みんなの協力が必要と思われるので、市民のあらゆる立場の人に知恵を出してもらえる何かを取組んで欲しいと思います。	過剰包装を断ることはリデュース(ごみの発生抑制)の重要な行動の1つです。今後とも住民説明会や各種広報紙などによる啓発活動を通じ市民・事業者の自主的なごみ減量行動につながるよう取り組んでまいります。
意見交換会(1回目)	41	低炭素まちづくり	家庭における環境活動の促進	中期実行計画(概要)が全体的に抽象的に作られている。 それぞれの課題や言葉の意味について具体的に示してほしい。 ・宇部市内CO ₂ 排出量	『家庭における環境活動の促進』(P54)中の記述、「基準年度と比べると大幅に増加」→「基準年度と比べると30%以上増加」に修正する。
パブコメ(団体)	42	低炭素まちづくり	家庭における環境活動の促進	カーボン・オフセットの目標指標として、実施事業数に加え、参加延べ人数等も追加してはどうか。	人数の把握は困難であるため、追加しない。
パブコメ(団体)	43	低炭素まちづくり	家庭における環境活動の促進	家庭における環境活動の促進の項 ①カーボン・オフセットは具体的に何をやるつもり？ ②用語の説明のカーボン・オフセットの分は違う説明が入っている。 ③環境にやさしい資源循環型のまちづくり加速化事業とはどんな内容？	①イベント時にマイカーで来場された方への、グリーンワンコインの寄附により、植樹をする。 ②「前期実行計画」時の説明通りに修正します。
パブコメ(団体)	44	低炭素まちづくり	実践的な環境教育の推進	太陽光発電設備等を学校に取り入れ、環境問題、エネルギー問題に対応していることは評価できる。	引き続き、エコスクールの整備を進めます。

低炭素まちづくり

分類（出所）	番号	分類	項目	ご意見の内容	ご意見に対する市の考え方
パプコメ（団体）	45	低炭素まちづくり	実践的な環境教育の推進	太陽光発電設備については、もっと環境教育に活用できるようにパネルの情報量を増やしてほしい。	情報量を増やした表示パネルの設置を検討します。
パプコメ（団体）	46	低炭素まちづくり	実践的な環境教育の推進	芝生の維持管理に係る助成が必要。	維持管理用の肥料等を学校に支給します。
パプコメ（団体）	47	低炭素まちづくり	実践的な環境教育の推進	実践的な環境教育推進の中に、ESDの視点（文言）を入れるべきではないか	ESD（持続可能な開発のための教育）は、環境分野に限らず、“福祉”“平和”“開発”“貧困撲滅”など、様々な分野についての幅広い教育・啓発等を示すことから、環境教育に関する具体的な取組を掲載する『実践的な環境教育の推進』の中では取り上げていません。
パプコメ（意見交換会）	48	低炭素まちづくり	協働による環境にやさしいまちづくり	「里地里山環境保全事業」竹林の整備については、里地里山環境保全事業に紐つくのだと思うが、取組の目標として明文化していただきたい。「林」の部分が全体として見えない計画になっている。 ※我が家では〇〇に竹林整備していただいています、このような取組を行政力で面的に拡げて、地域資源が荒廃しないようにしてほしい。	竹林の整備については、「保全林管理事業」として掲載し、整備目標を15haとしています。
意見交換会（2回目）	49	低炭素まちづくり	協働による環境にやさしいまちづくり	繁茂する竹林への対応はこれまでもしてきたのか	竹繁茂対策については、県による「やまぐち森林づくり県民税」を活用した伐採事業が実施されています。
その他（市外政策提言）	50	低炭素まちづくり	環境保全対策	低炭素まちづくりについて、環境分野では自然環境の保全と生態系の維持が新たな課題とされています。中期計画では、小野湖周辺に残る豊かな自然を守るとともに、市街地でも、産官学民の連携で失われた自然を再生紙、水と緑のネットワークをつくっていくことで、市全域で生物多様性を高める施策に力を入れていただければと思います。	平成24年度に策定した、小野湖周辺地域における生物多様性地域連携保全活動計画の取り組みを今後、宇部市地域全体に広げていきたいと考えています。